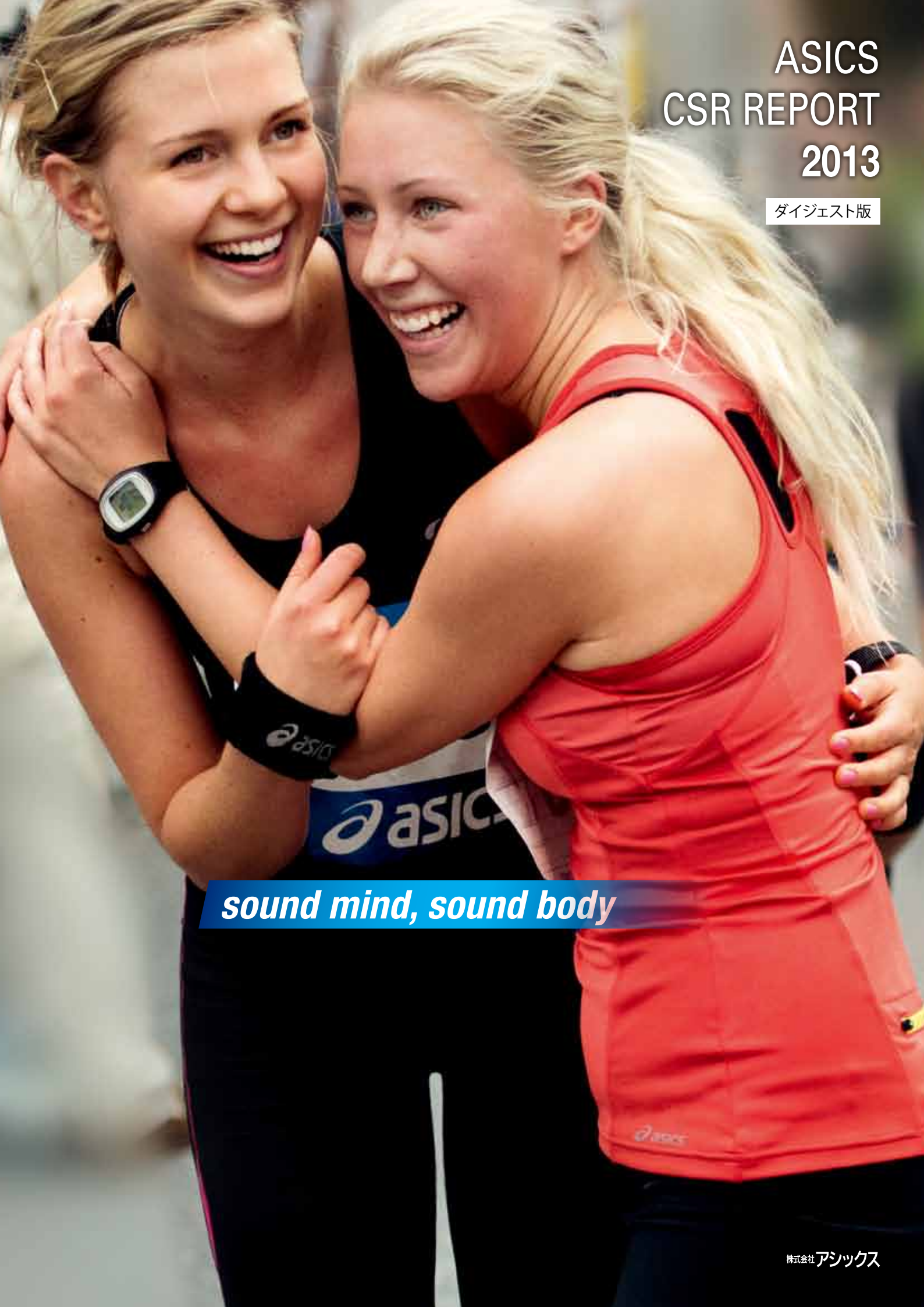


ASICS CSR REPORT 2013

ダイジェスト版

sound mind, sound body

株式会社アシックス

アシックスについて

会社概要（2013年3月31日現在）

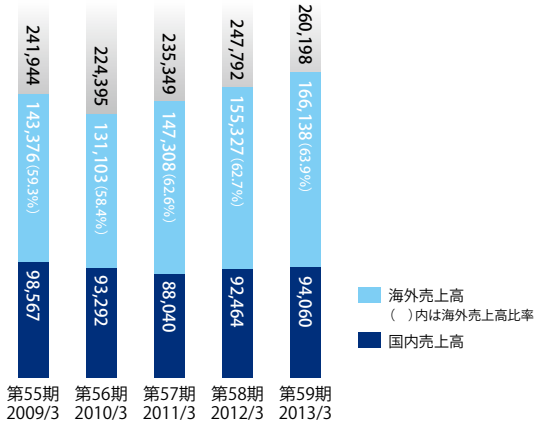
会社名　株式会社アシックス
創　業　1949年9月1日
資本金　239億72百万円
従業員　5,937人（連結）
［主な事業所］
本社：〒650-8555 神戸市中央区港島中町7丁目1番1
スポーツ工学研究所：〒651-2271 神戸市西区高塚台6丁目2番1

［子会社］
国内：13社　海外：38社
［2012年度の大きな組織変更］
日本事業を強化・拡大するため、国内の組織再編を行い、世界本社機能と日本事業を分離し、当社の日本事業をアシックスジャパン株式会社及びアシックス販売株式会社に移管するとともに、国内の販売子会社をアシックス販売株式会社に整理統合しました。

財務指標

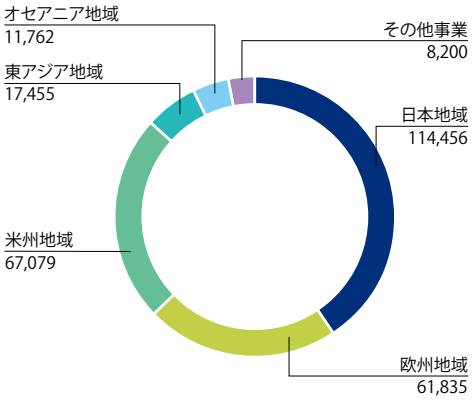
国内海外売上高推移

（単位：百万円）



報告セグメント別売上高

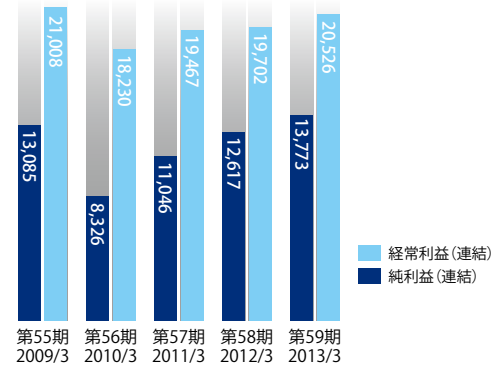
（単位：百万円）



※報告セグメント別売上高は、各地域及びホグロフスの売上高を表しています

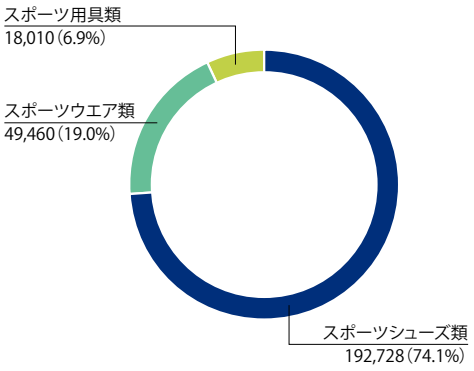
利益推移

（単位：百万円）



分類別売上高

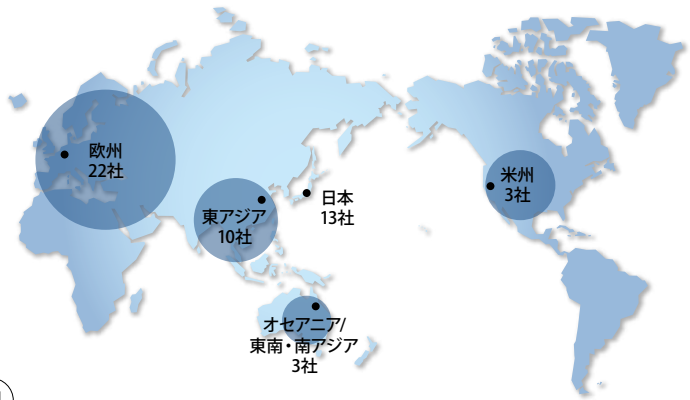
（単位：百万円）



※財務情報の詳細に関しては当社ホームページをご覧ください。http://www.asics.co.jp/corp/ir/top/

事業概要

アシックスグループは、2013年3月末現在、株式会社アシックスと国内外の子会社合わせて51社、5,937人で構成されており、「スポーツシューズ類」、「スポーツウエア類」、「スポーツ用具類」の3つの分野でグローバルな事業活動を行っています。



レポートについて

2013年版の編集方針

2012年のレポートと同様に、アシックスの4つの理念に基づく重点項目※に関する報告を掲載しています。アシックスグループは、企業の社会的責任（CSR）とサステナビリティに関する重要課題とその進捗について誠実に報告するように努めており、CSRレポートを2005年から毎年継続して発行しているほか、「Annual Report」と「有価証券報告書」を併せて報告メディアとして利用しています。

※4つの理念に基づく重点項目:「製品とサービス」、「環境と社会貢献」、「公正な事業と利益の還元」、「ガバナンスと従業員」

本レポートは主要な内容のみを掲載したダイジェスト版です。
より詳細なレポートはウェブサイトをご覧ください。
http://www.asics.co.jp/corp/envi/A

当社ホームページの投資家向け画面

Annual Report

●対象範囲／アシックスグループ

●対象期間／2012年度（2012年4月1日～2013年3月31日）

※海外事業所のデータ、業務委託先工場の環境データは2012年1月1日～12月31日

●発行日／2013年6月21日

●参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006（第3版）」

※GRI（グローバル・レポーティング・イニシアチブ）:オランダに本部を置くNGO。国連環境計画（UNEP）の公認協力機関。

●お問い合わせ先

株式会社アシックス　CSR・サステナビリティ室
〒650-8555　神戸市中央区港島中町7丁目1番1
Tel.078-303-1244　Fax.078-303-2211

●アシックスホームページ

日　本　**http://www.asics.co.jp/**
グローバル　**http://www.asics.com/top**

contents

アシックスについて 1
レポートについて 2
トップコミットメント 3
アシックススピリットと企業理念体系 5
アシックスCSR方針
- アシックスCSR方針 6
- アシックスの理念とISO26000中核主題の関連 6

CSR・サステナビリティ 2015年に向けた重点と目標
- 中期サステナビリティ目標 7

私たちのステークホルダー 8
特集■ロンドンオリンピックへの道 9
製品とサービス
- 製品・サービスを支える技術力 11
- 環境に配慮した製品開発 12
- 2012年の主な製品とサービス 13
- 製造工程中の環境負荷低減 15
- リサイクル材の採用 15
- 水溶性接着剤の採用 15
- 安全と品質 15
- 化学物質管理 15
- 個人情報管理 16

環境と社会貢献
- 環境方針 17
- 環境マネジメントシステム 17
- バリューチェーンでの温室効果ガスの排出 18
- 排出量削減の取り組み 18
- 社会貢献 19

公正な事業と利益の還元
- 業務委託先管理方針 21
- 2012年度の活動総括 21
- 2012年度の監査結果 22

ガバナンスと従業員
- コーポレート・ガバナンス 23
- 内部統制 24
- 内部監査 24
- 危機管理体制 24
- 従業員―ASICS 'One Team' 25
- 研修 25
- ダイバーシティ 26

トップコミットメント

人々の幸せと、
健やかな世界のために

2012年は、オリンピックイヤーでした。スポーツ用品メーカーにとっても日頃の技術の粋を結集する檜舞台です。

アシックスは、スポーツ工学研究所で培った技術の活用と大学や素材メーカーとの協働により、陸上競技用カーボン製スパイクシューズ、レスリング用ウエア・シューズ、競泳用水着など、高い機能を備えた製品を出場選手に提供することができました。その中で得た知見は、更に今後の一般向け商品を含めたものづくりに生かしていく予定です。

また、当社は世界の多くのマラソン大会を支援し、スポーツ文化の発展と地域の活性化への寄与に努めています。ハリケーン災害のために残念ながら中止となったニューヨークシティマラソンでは、アシックスアメリカが会場での売上の一部を赤十字に寄付しました。

これらは、スポーツを通じて質の高いライフスタイルを提供し、世界の人々の健康と幸せを追求するスポーツ用品メーカーとしてのCSRのごく一端です。

東北復興のための活動「A Bright Tomorrow Through Sport」(明日へ、スポーツとともに)で、震災で両親を亡くした子どもの心身ともに健やかな成長を願って継続的支援を実施しているほか、スペシャルオリンピックス日本※の日常プログラムや大会に社員がボランティアとして参加するなど、スポーツを通じての地域貢献・社会貢献に様々な場面で努めています。

JOC オフィシャルパートナー (スポーツ用品)

※スペシャルオリンピックス日本は、知的障がいのある人たちに、様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じて提供しているスポーツ組織です。

スポーツ用品メーカーとしてのCSR

環境や社会を考慮した製品・サービスを提供することで持続可能な生活を可能にしていくのもメーカーとして重要な務めです。

2012年度は、経営基盤の強化の一環としてCSR及びコーポレートガバナンス(企業統治)の強化を中期経営計画に掲げ、法令順守、人権への配慮、環境保全、地域貢献等、企業としての社会的責任を果たすための活動と更にそれを推進していくための体制作りに、全地域のアシックスグループの全部署が一体となって当たりました。

特に、「化学物質管理」、「環境負荷の低減」、「業務委託先工場での人権配慮」のマネジメントシステムの改善と確立には、喫緊の課題として優先的に取り組みました。

これらは、バリューチェーン及び製品ライフサイクルのあらゆる場面に関わる課題で、自社及びグループ内での管理にとどまらず、サプライヤーや業務委託先工場の皆様との協力が不可欠です。

今後も当社のものづくりに関わる多くの皆様との協力関係を更に密にして、より良いものにしていきたいと考えています。

また、WFSGI(世界スポーツ用品工業連盟)のCSR委員会、日本企業として初めて加盟したSAC(サステナブル・アパレル連合)などの場で、業界全体での仕組み作りも進める所存です。

'One Team'となって
地域と企業の共栄を目指す

私は、企業にはCSV(Creating Shared Value=社会と企業の共有価値の創造)という概念が必要であると考えています。そのためには、バリューチェーン上の企業の皆様との関係、更には我々企業を取り巻くあらゆるステークホルダーの皆様との関係を、より対等でより密なものにしなければなりません。

また、真のグローバル企業には、ダイバーシティ(多様性)の尊重が不可欠です。異なるバックグラウンドを持つ内外の人々と意見を出し合い、協力し合うことで、新しい視点ができ、創造的なアイデアにもつながると信じています。

世界各国のアシックスグループの社員はいうまでもなく、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションはこれまで以上に大切になります。

皆様との対話を深めながら、'One Team'となって社会と企業の持続的発展を目指したく存じます。

今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。

代表取締役社長 CEO 尾山 基

アシックススピリットと企業理念体系

ASICS SPIRIT
企業精神

創業の精神を継承する「アシックススピリット」は、「フィロソフィー」、「ビジョン」、「バリュー」で構成されています。

Philosophy
フィロソフィー

創業哲学

健全な身体に健全な精神があれかし
ー“Anima Sana In Corpore Sano”

アシックスの理念
1. スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する
2. 私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する
3. 健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する
4. 個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

Vision
ビジョン

Create Quality Lifestyle through Intelligent Sport Technology
スポーツでつちかった知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する

Values
バリュー

スポーツマン精神
第1条：スポーツマンはルールを守る
第2条：スポーツマンはフェアプレーの精神に徹する
第3条：スポーツマンは絶えずベストを尽くす
第4条：スポーツマンはチームの勝利のために闘う
第5条：スポーツマンは能力を高めるために常に鍛錬する
第6条：スポーツマンは、「ころんだら、起きればよい。
失敗しても成功するまでやればよい。」

企業理念体系

アシックスグループは、「アシックススピリット」に基づいて「アシックスCSR方針」を定め、持続的発展が可能な社会の実現を目指しています。

アシックスCSR方針

スポーツに関わる製品やサービスを通して、世界の人々の健康と幸せ、そして持続可能な社会と環境を実現する。
「アシックスCSR方針」は「CSR原則」と「CSR目的」からなります。私たちは4つの「CSR原則」を順守した上で、「アシックスの理念」に基づく9つの「CSR目的」に向かって事業活動を行います。

アシックスの理念 01	アシックスの理念 02	アシックスの理念 03	アシックスの理念 04
スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する	私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する	健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する	個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する
●技術革新を行い、お客様のニーズに応える持続可能な製品・サービスを提供し、質の高いライフスタイルを創造します。 ●お客様に提供する製品・サービスが安全で高品質であるよう、材料から販売に至るバリューチェーンのすべてで管理に努めます。	●製品の設計や製造工程をはじめとする事業活動のすべてにおいて、環境負荷の低減に努めます。 ●スポーツ文化の発展や人々の健康的な生活につながる活動等を通じて、地域や世界に広がるコミュニティの振興に貢献します。	●公正な競争と適正な取引を通じて、利益を創出します。 ●株主、地域社会、従業員に利益を適正に継続的に還元します。 ●協力工場をはじめとするサプライチェーンに対し、CSRの価値観を共有することを求めます。	●自らの意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。 ●多様性を受け入れ、従業員一人ひとりがお互いを尊重し、個性と創造性を発揮できる環境を整え、各個人の成長とともに企業の成長を目指します。

「CSR目的」

4つの「CSR原則」

- ステークホルダーとコミュニケーションをはかり、パートナーシップを構築する
- 人権を尊重し、個人の健全な成長を推進する
- 倫理的に行動し、法令を順守する
- 説明責任を果たし、透明性を保つ

アシックスの理念とISO26000中核主題の関連

アシックスの理念 01	アシックスの理念 02	アシックスの理念 03	アシックスの理念 04
消費者課題	環境 コミュニティー参画及び開発	公正な事業慣行	組織統治 人権 労働慣行

CSR・サステナビリティ 2015年に向けた重点と目標

重点

1. 環境の持続可能性

- バリューチェーンでの環境負荷低減目標とアクションプラン
- 化学物質管理の継続的強化

2. 社会の持続可能性

- 業務委託先工場の労働慣行管理の強化

中期サステナビリティ目標

マサチューセッツ工科大学（MIT）との共同研究プロジェクト（2010～2012年実施）の成果を反映させ、アシックスグループ全体及び中核事業であるフットウエア事業の2015年度に向けた中期サステナビリティ目標を2011年度に設定しました。バリューチェーン全体を考え、その中でも製造工程での環境負荷低減に重点を置いた目標となっています。

2012年度は、労働慣行管理の強化や業界の環境指標の適用、製造工程中の環境負荷の削減で前進がありました。ただ、化学物質管理の強化に向けた取り組みや環境配慮型接着剤の採用促進については、2013年に更なる前進が求められます。

重点項目と目標の達成に向け、アシックスグループのCSR・サステナビリティ活動を推進するため、CSR・サステナビリティの専任部門を設置しています。同部門は世界各地域の担当者からなり、CSR・サステナビリティの課題に対して、社内外のステークホルダーとの連携を図りながら取り組んでいます。

中期サステナビリティ目標の進捗と計画

カテゴリ	2015年度目標	2012年度進捗		2013年度計画	関連ページ
製品	1. 業界の環境指標の順次適用※	業界の環境指標（SAC Higg Index）を適用したグローバルの製品評価システムを設定		製品コンセプトと開発プロセスへの適用を開始	P12
	2. グローバルの評価基準の設定※				
	3. 環境配慮型商品の売上高占有率：35%※（2013年度目標。対象：国内売上高）	2012年度の売上高占有率は34.7%であり、2012年度目標30%を達成		2013年度売上高占有率35%	P12
	4. 化学物質管理の継続的強化※	●RSL（制限物質リスト）を更新 ●化学物質の分析方法を強化		●材料情報を管理する社内システムの改善 ●化学物質分析のガイダンス強化	P15～16
材料調達	1. 環境配慮型素材の採用	92点の製品にリサイクル材を採用		環境配慮型素材を継続して使用	P15
	2. 業界をリードするサステナブルな材料の研究、開発	5つの研究テーマが進行中		研究開発を継続し、製品への適用を検討	P11
製造工程	1. 直接取引工場の温室効果ガス（CO_2）、水、廃棄物の削減：1足当たり10%削減（2009年比）	●工場の環境負荷データを収集し、現状把握（生産量の90%以上） ●デザインの観点から環境負荷を低減		工場の環境負荷データの収集・現状把握を継続し、追加の環境負荷の低減計画を検討	P15 P18
	2. 環境配慮型接着剤（水溶性接着剤）の採用促進：生産量の60%以上	●全体採用率：38.5%（導入済み工場での採用率：57.5%） ●未採用工場での採用を促進		引き続き、未採用工場での採用を促進	P15
	3. 業界をリードするサステナブルな製造工程の研究、開発	7つの研究テーマが進行中		研究開発を継続し、製品への適用を検討	P11
	4. 新規業務委託先工場でアシックスのCSR基準を達成※	労働慣行管理の仕組みを強化		全ての新規業務委託先工場のスクリーニングを実施	P21～22
	5. 継続業務委託先工場でアシックスのCSR基準を達成※			継続業務委託先工場の60%を評価	P21～22
包装材と輸送	1. 包装資材の重量削減、リサイクル材の採用	●リサイクル材を継続して使用 ●箱のサイズを最適化		●リサイクル材を継続して使用 ●箱のサイズを最適化	—
	2. 物流拠点の集約化による温室効果ガス（CO_2）削減※	物流の集約拠点を検討		アジア地域から物流拠点の集約化を開始し、順次拡大予定	P18
	3. 製品輸送コンテナの容積率向上：85%以上（対象：国内向け出荷）	年間平均：83%		●目標値（85%以上）を継続 ●工場からの情報を基に、最適な船積計画を実施	—
事業所	1. 温室効果ガス（CO_2）削減10%※	0.1%増加		更なる削減計画を策定	P18

達成・計画通り進捗　未達・より前進が必要　青文字の目標は重点目標です。　※印の目標の適用範囲はグループ全体です。その他はフットウエア事業です。

私たちのステークホルダー

ステークホルダーとの関わり

アシックスの事業は様々なステークホルダーの皆様に支えられています。アシックスは「企業は社会の公器である」と考えており、ステークホルダーの皆様の利害と当社への期待を尊重し理解した上で、社会でのアシックスの役割と責任を認識するように努めています。

世界の環境や社会に関する課題には、アシックスとステークホルダーの皆様が、ともに取り組んでいく必要があります。また、ステークホルダーの皆様は、課題や関心、ビジネス機会に関するご意見を寄せていただく重要な役割を担っています。アシックスは、皆様の声に耳を傾け、理解し、対話することで、信頼関係と有益なパートナーシップを構築してまいります。

株主・投資家
健全なサービスによる利益を還元し、適時・適切な情報開示を行います。

お客様
お客様に価値ある製品・サービスを提供し、世界の人々の健康と幸せに貢献します。→ 詳細はP11へ

従業員
多様性を受け入れ、従業員一人ひとりがお互いを尊重し、個性と創造性を発揮できる環境を整えます。→ 詳細はP25へ

取引先
より持続可能なサプライチェーンの構築に向け、取引先と協働し共通価値を生み出します。→詳細はP21へ

地域社会
活動を通じて地域社会の発展に貢献します。→ 詳細はP19へ

NGO・NPO
NGO・NPOとの継続的な対話を通じ、社会課題や業界への期待を理解し、ともに解決策を模索します。

学術機関
国内外の大学や他の学術機関との協働は、革新的でより良い持続可能な製品・サービスの開発につながります。

政府機関
法令や条例を順守し、意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。

業界団体
→詳細は下表へ

業界団体との協働

団体名	概要
サステナブル・アパレル連合（SAC）	アパレル・フットウエア製品の環境負荷の低減と社会面（生産現場での労働環境）の改善を目的とする団体で、アパレル・フットウエアメーカー、小売業者、製造業者、NGO、学術機関、政府機関等の80以上にも上る組織から構成されています。最初の取り組みとして、アパレル製品の環境負荷を測定・評価する業界共通の評価指標「Higg Index（ヒグインデックス）」が開発されました。アシックスはSACの創設メンバーであり、Higg Indexの改善と実践、そしてフットウエア製品と社会面の評価指標の作成とパイロットテスト（試験運用）に積極的に参画しています。
世界スポーツ用品工業連盟（WFSGI）	世界のスポーツ産業の健全な発展と自由で公正な取引を実現することを目的に設立された世界最大のスポーツ用品業界団体です。現在、世界各国のスポーツ用品メーカー、供給業者、小売業者、各国地域のスポーツ用品工業に関係する団体で構成されています。当社の代表取締役社長CEOの尾山基は、同連盟の第13代会長を現在務めています。
公正労働協会（FLA）	詳細はP22をご覧ください。
その他	上述の団体に加え、欧州スポーツ用品工業連盟（FESI）、米国アパレル・フットウエア協会（AAFA）、日本スポーツ用品工業協会（JASPO）やその他の地域団体で、業界内での協働や情報共有を行っています。

特集

ロンドンオリンピックへの道 ～アスリートの最高のパフォーマンスのために～

ロンドンオリンピックでアスリートが全力で競う姿は、世界に感動を与えました。アシックスは「夢の大舞台で最高のパフォーマンスができる製品」を生み出すことを使命に、内外の高い技術を結集し、製品開発にまい進しました。

日本の航空宇宙技術リーダーとのコラボレーションによる短距離スパイクシューズ開発

アシックスは、アウターソール（外底）の全面にカーボン繊維強化プラスチック（CFRP）を採用した陸上短距離シューズを開発しました。

短距離走では100分の1秒の差で勝敗が決まるため、走行中の荷重中心の後退を防ぎ、最高速度を維持することが重要となります。そのため、スパイクシューズの外底は軽量であると同時に、十分な剛性や強度が求められます。CFRPは、この技術的に難しいバランスを可能にしました。CFRPは鋼鉄の10倍以上の強度を持ちながら、当社従来のプレートに用いられている樹脂と比べて15%軽くなっています。

また、部位によって必要とされる剛性の違いに応じた設計を航空宇宙技術で実績のある川重岐阜エンジニアリング株式会社※との共同で行いました。

その結果、エネルギーロスを少なくし、レース中盤以降も最高速度を維持しやすいアウターソールが完成しました。

また、スパイクピンは重心移動をよりスムーズにできるよう、アシックススポーツ工学研究所が保有する数多くのトップ選手のデータと人間工学の知見に基づき、配置しました。

※川重岐阜エンジニアリング株式会社

1981年、川崎重工業株式会社の技術関連分野を支援する関連会社として発足しました。以来、川崎重工業航空宇宙部門で生産する航空機、宇宙ロケットなどの設計技術、生産技術及び情報技術を支えています。同時に航空宇宙の技術を応用して数々のユニークで優れた製品・器材を生み出すとともに、高度な専門知識を生かして多彩な技術サービスを展開しています。

文部科学省の「マルチサポート事業」への参画

日本の選手団は、ロンドンオリンピックで過去最多の38個のメダルを獲得しました。これは、オリンピックでメダルが期待できる競技に専門的支援をすることを目的に文部科学省が実施した「マルチサポート事業」の成果であるとも言われています。アシックスは、文部科学省から同事業を委託された筑波大学との共同研究により、レスリング、フェンシング、トライアスロンの3つの競技で選手の声を取り入れながら開発・作製を行いました。

レスリング

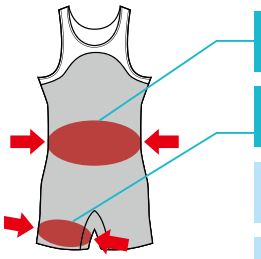
マルチサポート事業は、既に2008年からスタートしていました。アシックスは、シングレット（レスリングのウエア）の開発に当たっては、レスリングの競技特性に着眼し、タックル時の動作効率を高める機能開発と、激しい動きに対応できるフィット性の追求をテーマとして研究を進めてきました。動作分析を幾度も行った結果、体軸のブレの軽減と部分圧着によって筋活動効率を向上させる構造を開発することに成功しました。また、今まで直立姿勢を基本パターンとしていたものから、初めてレスリングの競技中の基本姿勢である前傾姿勢を基本パターンに採用し、競技動作を行いやすいようにしました。

シューズのソールには、自社オリジナル配合のラバー素材を使用し、日本選手の特徴であるスピーディーな動きを引き出せるよう、縦横の屈曲溝やサイドへの巻き上げ構造を採用したのに加え、ダッシュしやすいよう前後で硬度を変えるなどの設計をしました。

オリンピックでは、女子の吉田選手、伊調選手が三連覇を達成し、小原選手も金メダルを獲得したほか、米満選手が日本男子では24年ぶりの金メダルを獲得。アシックスの開発したシングレットとシューズを着用した選手が女子3階級、男子1階級を制覇しました。

※米満選手のシューズは従来モデル

■シングレット改良点



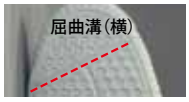
- 体幹の安定により体軸のブレ軽減
  《腹圧構造》体軸のブレを軽減、推進力の増大
- 部分圧着による筋活動効率のアップ
  《大腿着圧構造》筋活動の軽減、筋活動効率のアップ
- 《前傾姿勢ゼロポジションパターン》
  基本姿勢である前傾姿勢が取りやすいパターンを採用
- 適度な締め付けと動きやすさを両立させるため、肌に接する部位に極細繊維でできたフィットしやすい素材を使用

■レスリングシューズ改良点

更なるグリップ性の発揮
屈曲溝（縦）と巻き上げ構造

◆自社オリジナル配合のラバー素材
◆どんな動きにも対応可能な屈曲溝
◆タックルや寝技の際にグリップ性を発揮する巻き上げ構造

蹴り出し力の効率的な伝達
屈曲溝（横）と異硬度設計



◆足が離れる直前までグリップできるつま先部の屈曲溝
◆ダッシュの力を伝えやすくする前後異硬度構造

JAPAN
JOC
オフィシャルパートナー
（スポーツ用品）

TOPICS チームワークでの取り組み事例

情熱を共有できたチームワーク ～川重岐阜エンジニアリング株式会社との協働～

アシックスと川重岐阜エンジニアリング株式会社が協働し、スパイクシューズの新しい技術開発に成功したのは、何よりも「情熱」をチームとして共有できたからです。それまでアスレチックスポーツと全く関わりがなかった川重岐阜エンジニアリング株式会社のスタッフも「選手が少しでも速く走れるシューズを作るんだ」という強い思いを持っていました。改良時の製造スピードも上げていただき、その結果、早いサイクルで改良品を選手に試してもらえたことで、技術的な経験値を繰り返し上げていくことができました。

アスリートとの‘One Team’

レスリングシューズの開発では、オリンピックに向けて選手一人ひとりとアシックスが、まさしく一つのチームのように、長年にわたり協力してきました。選手によるオリンピック用シューズの試用は、既に2008年からスタートしており、当時から改良を繰り返し行ってきました。また、選手ごとに特徴が異なる足やプレースタイルに合わせて、レスリングチームでは初めて、重さ、履き口、ソールの硬さを選べるようにしました。その結果、13人の選手全員が自分に合わせてそれぞれ違うタイプのシューズをオリンピックで使用しました。

このように、アシックスとアスリートのチームワークが最高のパフォーマンスにつながったことは、大きな喜びです。

製品とサービス

アシックスの理念

01 スポーツを通して、すべてのお客様に
価値ある製品・サービスを提供する

CSR目的

- 技術革新を行い、お客様のニーズに応える持続可能な製品・サービスを提供し、質の高いライフスタイルを創造します。
- お客様に提供する製品・サービスが安全で高品質であるよう、材料から販売に至るバリューチェーンのすべてで管理に努めます。

製品・サービスを支える技術力

スポーツ工学研究所

1985年、スポーツ用品全般の基礎研究・開発強化のためにアシックススポーツ工学研究所を設立しました。設立以来、数多くの技術を生み出し、アシックスの製品・サービスに適用してきました。研究所には人体や運動機能、材料物性、製造工程などを分析する研究設備のほか、体育館や陸上トラックも設置しており、製品を実戦的に使用しての試験やデータ分析も行います。研究所内での独自研究はもちろんのこと、材料メーカーとの共同開発、公的機関との基礎研究にも積極的に取り組んでいます。

また、環境に配慮した材料や製造工程の研究開発も重点項目の一つとなっており、2012年度は14の研究テーマを通じて材料や製造工程の省エネ・省資源化やリサイクル性の向上に取り組みました。

スポーツ工学研究所

研究成果

スポーツ工学研究所での様々な研究の成果は製品・サービスの機能強化や環境負荷の低減に活用しています。

開発した技術の例

フィット性向上構造：バイオモルフィックフィット	運動中の足は常に変形しており、シューズのフィット性を高めるには、足の変形に合わせてシューズのアッパー（甲被）部分も変形する必要があります。バイオモルフィックフィット構造では、足が大きく変形する部分と変形しない部分との境目に伸縮性のある素材を配置することで、それを実現しました。
軽量素材：Solyte（ソライト）	ソライトは従来使用していたEVA（エチレンビニルアセテート）より約50%軽いシューズのミッドソール素材です。従来より軽量であるにも関わらず、衝撃緩衝性や強度などの機能性も向上させることができました。従来の約50%の材料しか使用しないため、省資源にもつながります。
耐久性素材：AHAR（エーハ）ラバー	エーハラバーは従来素材より約2倍（当社比）の耐久性を持つシューズのアウターソール（外底）素材です。また、さらに約3倍（当社比）の耐久性を持つAHAR PLUS（エーハプラス）という素材も開発しました。

環境に配慮した製品開発

業界の評価指標を導入

アシックスは2011年からサステナブル・アパレル連合（SAC）に加盟しています。SACはアパレル・フットウエア製品の環境負荷の低減と社会面（生産現場での労働環境）の改善を目的とする団体で、アパレル・フットウエアメーカー、小売業者、製造業者、NGO、学術機関、政府機関等の80以上にも上る組織から構成されています。最初の取り組みとして、製品の環境負荷を測定・評価する業界共通の評価指標「Higg Index（ヒグインデックス）」を開発しています。アシックスはHigg Indexを商品開発のプロセスに取り入れ、製品の環境面の改善に取り組んでいきます。

2012年度はフットウエア製品と社会面の評価指標のパイロットテスト（試験運用）に参画し、評価指標の内容や使いやすさに関する改善点をSACにフィードバックすることで指標開発に貢献しました。2013年度は、引き続き指標の開発作業に貢献しながら、フットウエア製品や一部のアパレル製品のコンセプトや開発プロセスにHigg Indexの考え方を取り入れていきます。

※SACやHigg Indexに関する詳細情報はSACのホームページをご覧ください。
http://www.apparelcoalition.org/

Higg Indexではバリューチェーンでの環境負荷を測定・評価します。

エコプランマーク認定基準

2007年度から、自社基準「アシックス エコプランマーク認定基準」に基づく製品評価を開発プロセスで行うことで、製品の環境配慮改善に努めています。

エコプランマーク認定基準の考え方はSACのHigg Indexの考え方と方向性を同じくしているため、グループ全体ではSACのHigg Indexを重点とした取り組みに、まずはフットウエア製品から移行していきます。

2012年度は、引き続きエコプランマーク認定基準に基づく開発を行いました。エコプランマーク認定基準を満たした新規開発製品は840点となり、2012年度目標である461点を達成しました。

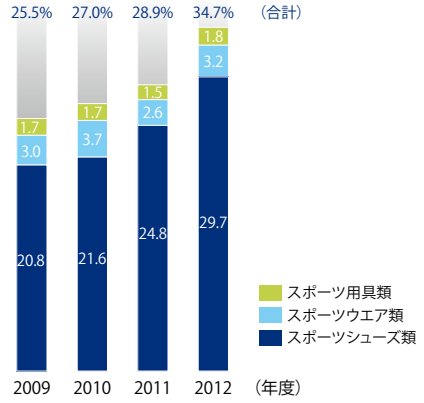
また、エコプランマーク認定基準を満たした製品の国内売上高に占める割合は34.7%となり、2012年度目標である30%を達成しました。

アシックス
エコプランマーク

アシックス　エコプランマーク認定基準

クリーン	**環境への負荷を減らすものづくりに取り組みます** ●環境に配慮した素材、材料を使用し、廃棄時などの環境負荷を減らした商品 ●廃棄時の環境負荷を減らすため、分別・分解しやすい素材・構造になっている商品
セービング	**ものづくりにおける省エネ・省資源活動に取り組みます** ●材料の使用量を減らし、省資源に取り組んだ商品 ●共通の材料を使用することにより、資源を有効利用して作られた商品 ●製造工程の効率化により、省エネに貢献した商品
サステナブル	**商品の長寿命化を促進し、廃棄物の減少に貢献します** ●消耗部位の修理、交換が可能な商品。また、修理、交換が容易な構造になっている商品 ●耐久性に優れた素材・構造を採用した商品
リサイクル	**循環型社会を目指し、リサイクルを促進します** ●循環型リサイクルシステム（製品⇒回収⇒リサイクル⇒製品）の仕組みを利用して作られた商品 ●廃材を再利用して作られた商品 ●リサイクル素材を使用した商品
包装材	包装資材も商品の一部と捉え、軽減、簡素化に取り組みます

環境配慮型商品の売上高占有率



定量的評価に基づく改善

アシックスの製品は科学的分析に基づいて開発されています。環境への配慮についても同様にライフサイクルアセスメント（LCA）などの定量的評価に基づいて行っています。2010年～2012年にマサチューセッツ工科大学（MIT）と共同研究プロジェクトを実施し、ランニングシューズの原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄に至るまでのバリューチェーン全体のCO_2排出量が1足当たり約14kgであることが分かりました。※また、製造段階での環境負荷が大きいことが分かり、それをアシックスの環境負荷低減の重点項目としました。

今後も定期的に定量的評価を行い、環境負荷低減活動の見直しを行っていきます。

※http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0959652612006300

2012年の主な製品とサービス

アシックスは、常にお客様の要望にお応えできる製品の開発とサービスの提供に努めています。また、環境への配慮も進めています。

ランニングシューズ「GEL-KAYANO 18」

アメリカのランニング専門誌「RUNNER'S WORLD」の2012年の「International Best Update」賞に選ばれました。今回の受賞は、確かな安定性に加えて、優れたクッション性、フィット性を兼ね備えたシューズとして評価されたものです。

当シューズは、APMA※（アメリカ足病医学会）からの認定も受けています。

また、当社はフットウエアのバリューチェーン中のCO_2排出量を外部機関と共同研究し、「GEL-KAYANO 18」の秋冬モデルでは、リサイクル素材の採用やアウターソールのプレス工程数削減によるエネルギー・廃棄物の削減などにより、CO_2排出量を約20%削減することができました。CO_2排出量削減の取り組みについては、ほかのランニングシューズにも順次拡大しています。

※APMA（アメリカ足病医学会）は、足病医（Podiatric Medicine）の大半が加盟する権威ある団体で、1912年に設立。
40種類以上の当社シューズがAPMA（アメリカ足病医学会）の認定を受けています。この認定を受けるためには、試験機関による厳格な臨床試験に基づく、安全性と有効性の証明が必要となります。

ランニングウオッチ「AP01」

独自の3Dセンサー技術により、ランニング中のピッチ（1分間当たりの歩数）を計測し、リアルタイムで表示する機能を初めて搭載したランニングウオッチです。ピッチを把握しながら走ることで、自分に合ったランニングペースの維持が容易になることから、効果的なトレーニングに役立ちます。

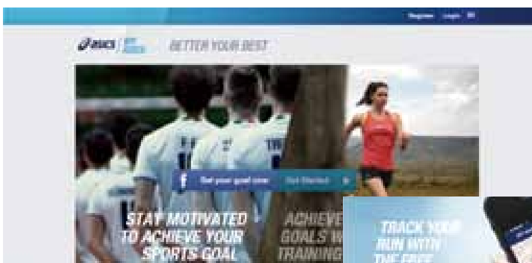
またスポーツ工学研究所で蓄積したデータを基に、ピッチと累積歩数から走行スピードや距離及びシューズの消耗度合いを割り出して表示する機能を開発し、搭載しています。

オンラインのトレーニングサポートサービス「My ASICS」

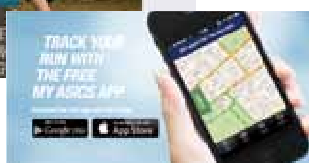
ランナー一人ひとりのレベルや走る頻度などに合った効率の良いトレーニングメニューを提供し、目標達成をサポートする無料オンラインサービスです。様々なレベルのランナーの目標達成をサポートする中で行ってきたスポーツ工学研究所での7年間の研究成果に基づいて開発しました。

2012年度は、ランニングの練習記録を入力するごとに最適ペースや練習プランを再計算・更新できる機能を追加したほか、従来のiPhoneアプリに加えAndroidアプリでの提供を開始するなどの更新を行いました。

2011年1月のサービス開始以来、世界で30万人以上のランナーに使用されています。



http://my.asics.co.jp/



最上級野球用品「GOLDSTAGE」シリーズ

高校生を主な対象に、グラブやバットなど各用具を総合的に取りそろえた野球用品の最上級シリーズです。軽さやスピードを重視したのが特徴で、アシックススポーツ工学研究所で実験、検証を重ねて開発しました。

【主な商品】

■**硬式用グラブ 内野手用**：当社従来モデルより約18%軽くするなど、軽さと操作性を追求しました。

■**硬式用金属製バット**：軽量化や質量バランスを調整するなど、「振りやすさ」を追求しました。

■**スパイクシューズ**：縫製箇所を減らした「ワンピース構造」を採用するなど、フィット性と軽さを重視しました。

女子サッカー専用スパイクシューズ「DS LIGHT X-FLY women」「DS LIGHT X-FLY women SL」

女子サッカー選手を対象に行った調査結果を基に、要望が多かった軽さやフィット性を高める機能構造を盛り込んでいるのが特徴です。

ラスト（靴型）の作製に当たっては、選手の足形計測から得たデータを参考にしており、女性の足によりフィットするようにしています。靴底には、当社独自開発の軽量合成樹脂素材「ソライトポリマー」を採用し、軽さと耐久性を両立させています。また、衝撃から足を守るため、かかと部に柔らかい素材のミッドソールを搭載しています。「DS LIGHT X-FLY women」にはリサイクル材を採用しています。

ランニングシューズ「ASICS 33」

足が本来持つ自然な動作ができるようアシックススポーツ工学研究所で研究、分析した機能を盛り込みながら、軽さと履き心地の良さも追求したランニングシューズです。人間の足首から足先にかけて33カ所の関節があることにちなんで名付けました。

マルチトレーニングウエア「A77」

「A77」シリーズは、競技を問わずに使用できるマルチトレーニングウエアで、普段のトレーニングはもちろん、試合の応援やスポーツイベントの観戦などスポーツに関する様々なシーンに合いやすい躍動感のあるデザインが特徴です。

製造工程中の環境負荷低減

マサチューセッツ工科大学（MIT）との共同研究プロジェクトの成果から、フットウエア事業の環境負荷の大部分は製造工程にあることが分かりました。アシックスの環境負荷低減の重点項目の一つは、製品デザイン・設計の観点から製造工程中の環境負荷を低減することです。ランニングシューズなどの競技用シューズでは、以下に取り組んでいます。

- パーツ、材料、工程の統合と削減
- より省エネルギー・省資源につながる製造工程への変更

リサイクル材の採用

アシックスは様々な製品でリサイクル材を採用しています。2012年度は競技用シューズのアッパー材やウエアなど92点の製品にリサイクル材を採用しました。今後もリサイクル材や他の環境配慮型素材の採用に努めます。

水溶性接着剤の採用

シューズの製造工程で使用される接着剤は、環境負荷と労働環境の点から、業界では主要な改善点の一つとなっています。製造工程からのVOC（揮発性有機化合物）排出の削減に向け、水溶性接着剤の採用率の向上に努めています（2015年度目標は生産量の60%以上での採用）。

2012年度の採用率は38.5%でした。2015年度目標の達成に向け、未採用工場での採用率向上を促進します。

安全と品質

アシックスは、製品安全・品質保証をメーカーの普遍的責務であると捉え、「製品等安全・品質保証方針」を以下の通り定めています。

(1) 私たちは、お客様に満足いただける安全で高品質な製品・サービスを追求します。
(2) 私たちは、お客様に正確で分かりやすい情報を提供します。
(3) 私たちは、ものづくりにおける法令、基準を遵守します。
(4) 私たちは、製品及びサービスの安全・品質保証活動の維持向上に努めます。

本社組織では各部署に「製品等安全管理者」を置き、定期的な管理者会議の開催等により情報の共有化及び部署間の整合性を図り、製品の安全・品質保証に関する活動を推進しています。2012年度は安全品質に関わるガイドラインの一部整理・策定を行いました。

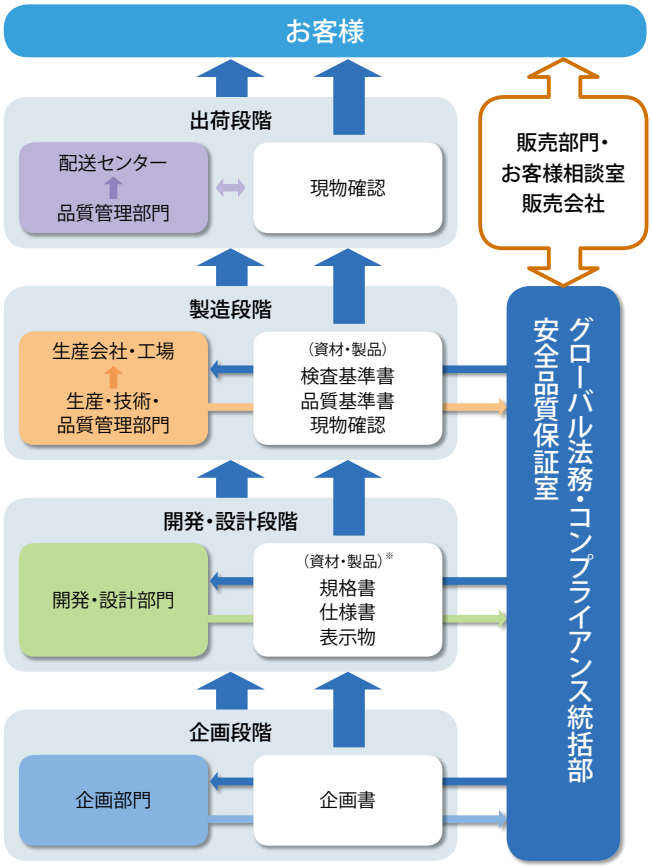
2013年度はこれらの活動をグループ会社にも拡大していく予定です。

プロセスごとにチェックを徹底

アシックスは、製品の品質と安全性、及び商品と広告宣伝での表示について、関連する法規制、業界基準、自社基準に適合しているかどうかを企画から出荷までの各過程で審査しています。資材・製品の安全性と品質に関しては、定められた試験の結果にも基づき確認します。

2012年度は、明確で分かりやすい表示を徹底するため広告宣伝での表示に関する教育を本社で実施しました。

製品安全審査フロー



※資材・製品の安全性と品質に関しては、法規制、業界基準、自社基準に定められた試験が実施されているかどうかを確認し、その判定結果に基づいて指導・提案を行っています。
また、有害化学物質に対する独自の管理基準を定めて運用を進める一方、製品安全審査の一環として一部商品のモニタリングも行っています。

化学物質管理

アシックスは化学物質管理の継続的強化を目標に掲げ、有害化学物質の使用・影響を製品の企画から廃棄までの各段階で削減するための取り組みを新たに開始しました。取り組みは、全てのアシックスとオニツカタイガー製品（シューズ、ウエア、用具）に適用されます。2015年度までの主な取り組みは以下の通りです。

- 制限物質リスト（RSL）を強化し、消費者の製品使用や廃棄、製造工程での化学物質リスクを削減

- 推奨物質リストの作成を検討し、安全な化学製品の使用を推進
- 製品や材料の化学物質分析の方法やガイダンスを強化
- アシックスの化学物質管理に関する取引先とのコミュニケーションを強化
- アシックスとサプライヤー双方の化学物質リスクに関する知識を向上
- 2005年に制定した「アシックス有害化学物質管理・運用ガイドライン」を含む製品安全に関する各種ガイドラインを更新・強化

2012年度はRSLを更新し、制限物質と材料の関連性などの有用な情報を付加しました。また、製品や材料の化学物質の分析方法を強化しました。スポーツ工学研究所に新たな分析機器を導入するなど、社内分析体制も強化しました。

2013年度は材料情報を管理する社内システムの改善や化学物質分析のガイダンス強化に取り組みます。

これらの取り組みを通じて、製品と製造工程の化学物質リスクの削減と、より革新的な材料や製造工程の開発、適用につなげたいと考えています。

アシックス制限物質リスト概要

	制限物質グループ
1	フタル酸エステル類
2	アゾ染料
3	発がん性、アレルギー性分散染料
4	有機スズ化合物
5	重金属類
6	アルキルフェノール類
7	フェノール類
8	難燃剤
9	多環芳香族炭化水素
10	他の化学物質（ホルムアルデヒド、DMF、PFOS、PFOA、PVC）
11	オゾン層破壊物質
12	農薬
13	PCB、PCT類
14	揮発性有機化合物
15	有機塩素化合物
16	REACH SVHC
17	アスベスト類
18	ダイオキシン、フラン類

個人情報管理

個人情報管理方針

アシックスは、お客様情報を始めとする様々な個人情報について、その重要性や保護の必要性を理解し、適切かつ安全な管理に取り組むため、以下の個人情報管理方針を定めています。

プライバシーマーク

(1) 当社は、各種スポーツ用品及びレジャー用品の製造・販売を主要事業と致しておりますが、このような事業の内容及び規模を考慮して適切に利用目的を特定するとともに、その範囲内で個人情報を取得、利用及び提供致します。
(2) 特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱いを行わないとともに、そのための措置を講じます。
(3) 個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止及び是正に努めます。
(4) 個人情報に関する法令、国が定める指針及びその他社内外の規範を遵守致します。
(5) 苦情及び相談を受け付けた場合は、適切かつ迅速に対応致します。
(6) 個人情報を適切に管理、保護するためのマネジメントシステムを構築し、継続的改善に努めます。

個人情報管理体制

2012年度はプライバシーマーク付与適格性審査を申請し、2012年12月3日に付与適格の決定通知を受けました。

また、2012年度は下表の通り、目標に対し実施計画を立て活動に取り組みました。

2012年度の実績（国内）

計画	実績	今後の課題
リテール部門での顧客情報のリスク管理と有効活用	店舗ごとのリスク分析を実施し、リスク状況が明確になった	店舗の内部監査方法を改善する
一人ひとりが個人情報管理の理解を深め、漏えいがないよう気を付ける	全社員向けに個人情報理解度テストを実施し、よく理解していることを確認した	うっかりミスによる漏えいを防ぐため、自主点検リストを有効活用する
リスクに応じた管理を行う	個人情報の管理単位を大きくし、管理にメリハリをつけた	リスクに応じた内部監査を実施する

2013年度はアシックスジャパン株式会社がプライバシーマークを取得する計画です。

環境と社会貢献

アシックスの理念

02 私たちを取り巻く環境をまもり、
世界の人々とその社会に貢献する

CSR目的

- ●製品の設計や製造工程をはじめとする事業活動のすべてにおいて、環境負荷の低減に努めます。
- ●スポーツ文化の発展や人々の健康的な生活につながる活動等を通じて、地域や世界に広がるコミュニティの振興に貢献します。

環境方針

気候変動や資源の枯渇など、環境問題は世界の大きな課題となっています。当社にとってもそれらの問題は事業に大きな影響を与えるものであり、持続可能な発展を実現するために企業として真摯(しんし)に取り組むべき課題と認識し、以下の方針を定めています。

アシックス環境方針

●理念

アシックスは、環境保全活動が企業の重要な社会的責務の一つであることを認識し、地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために行動する。

●方針

(1) アシックスグループにおける環境マネジメントシステムを拡大、整備し、権限と責任を明確にすると共に、地球規模での環境保全を推進する。
(2) あらゆる企業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、グリーン購入、汚染防止など地球環境への負荷の低減に取り組む。
(3) 企業活動において、あらゆる国や地域での環境関連の法律、規制、協定などを遵守するとともに、より一層の環境保全に努める。
(4) あらゆる商品及びサービスにおいて、企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り・研究開発に努める。
(5) 環境監査を実施することにより、環境マネジメントの継続的改善を図り、企業の社会的責任を果たす。
(6) アシックスグループ内外の広報活動、環境教育などの機会を通じて環境保全に関するグループ全従業員の意識の向上に努める。
(7) 企業の社会的責任の一つとして、環境保全活動の取り組み状況を積極的に情報公開し、ステークホルダー(利害関係者)とのコミュニケーションを図る。

環境マネジメントシステム

アシックスは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)のサイクルに基づく環境活動の継続的改善を進めるために、環境マネジメントシステム「ISO14001」認証の取得やそれに準じた環境活動管理を進めています。2013年3月31日現在、アシックス本社、スポーツ工学研究所、アシックスヨーロッパB.V.など、7事業所でISO14001認証を取得しています※(従業員ベースで24%のカバー率)。

欧州ではISO14001認証の取得拡大を進めており、2015年度までに全事業所での取得を目指しています。2012年度は新たにアシックスUKリミテッドで認証を取得しました。また、2013年度はアシックススカンジナビアA/Sが認証取得に向けた環境マネジメントシステムの導入を開始しました。

その他の地域の事業所についても、アシックスグループ全体の環境マネジメントシステムの傘下にあり、定期的に環境実績を本社に報告しています。

※その他のISO14001認証取得事業所は、アシックスドイチュラントGmbH、アシックスオーストリアGmbH、アシックスポルスカSp.zo.o.、アシックスUKリミテッドです。

バリューチェーンでの温室効果ガスの排出

2007年度から国内事業所での温室効果ガス（CO_2）の排出量データを把握し、削減に努めています。2010年度からはアジア地域、そして2011年度からはその他の海外事業所に取り組みを拡大しました。また2011年度には、2015年度に向けた削減目標10%を設定しました。

また本レポートから、直営店やフットウエアの業務委託先工場、海上輸送での温室効果ガス（CO_2）排出量の報告を開始しました。今後も測定・報告する範囲を拡大していきます。

バリューチェーンでの温室効果ガス（CO_2）排出量

アシックスグループ事業所

CO_2 排出量
16,030 トン

国内外のオフィス、ショールーム、物流センター、生産子会社が含まれています（合計44社）
また、社有車からの排出量も含まれています。

フットウエア業務委託先工場

CO_2 排出量
168,043 トン

アシックス製品の大部分は業務委託先工場で生産されています。業務委託先工場のデータはアジア地域の24工場分です。（フットウエアの全生産量の90%以上を占めます）

フットウエア製品の輸送

CO_2 排出量
30,049 トン

輸送データは現在フットウエア製品の海上輸送に限られています。今後他の輸送形態や製品に拡大していきます。

アシックス直営店

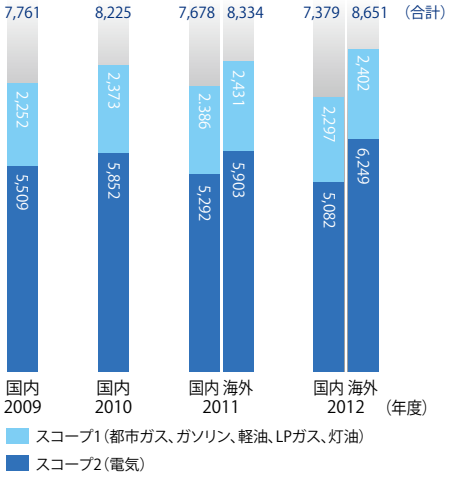
CO_2 排出量
3,395 トン

直営店データは、24店分は実績データの収集、145店分は推計により算出しています。

※各温室効果ガス（CO_2）排出量は、GHGプロトコルが提供する係数（海外データ分）と地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）に基づく係数（国内データ分）を使用し算出しています。

事業所からの温室効果ガス（CO_2）排出量

（単位：t-CO_2）



※国内（11社）及び海外（33社）のデータです。
※国内グループのデータは、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）に基づく係数を用いて算出しています。また、電力の排出係数は、0.410kg-CO_2/kWh を使用しています。
※海外グループのデータは、GHGプロトコルが提供する係数を用いて算出しています。
※2011年度の海外事業所のデータを修正しました。

排出量削減の取り組み

2012年度は次の通り温室効果ガス（CO_2）排出量の削減に取り組みました。

アシックスグループ事業所の主な活動

販売子会社	●消灯の徹底 ●省エネ型照明への切り替え ●ハイブリッドカーなど環境負荷を低減した社有車の調達推進 ●再生可能エネルギーの調達 ●社屋の環境配慮設計　など
生産子会社	●不要箇所の消灯の徹底 ●クールビズ、ウオームビズの徹底 ●機械設備の省エネ化の推進　など
物流センター	●作業の効率化による稼働時間の短縮（使用電力の削減） ●不使用機器の電源オフ ●集約配送効率の向上 ●再生可能エネルギーの調達 ●社屋の環境配慮設計　など
本社・スポーツ工学研究所	●消灯、節電、エコドライブの継続 ●テレビ会議システムの活用による、出張にかかるCO_2の削減 ●製品輸送コンテナの積載率・充足率の向上 ●社屋の環境配慮設計、省エネ型照明への切り替え ●グリーンカーテン設置による冷房の節約　など

ソーラーパネルの設置など環境配慮設計を導入したアシックスヨーロッパB.V.ビル

社会貢献

創業者の鬼塚喜八郎は、終戦直後の荒廃した日本社会を目の当たりにし、スポーツを通じて青少年の心身の育成に貢献したいと考えました。また、スポーツには心身を健康にするだけではなく、文化の違いを乗り越え、団結力を高める力があると信じていました。

創業から60年以上が経ちましたが、アシックスがスポーツを通じて社会に貢献するという役割は変わっていません。私たちはフィランソロフィーやボランティア、災害被災地への支援、教育・研究支援、健康的で持続可能な生活の推進を通じて、地域社会の発展に貢献していきたいと考えています。

アシックスは世界で50以上のマラソン大会を支援しています。他にも、大規模な国際大会から小規模な地域大会まで様々なスポーツイベントの支援を通じ、各地のスポーツ振興や健康意識の向上に貢献しています。また、無料のオンラインサービス「My ASICS」を通じて、様々な方にランニングトレーニングを推進するなど、サービスを通じた貢献にも努めています。

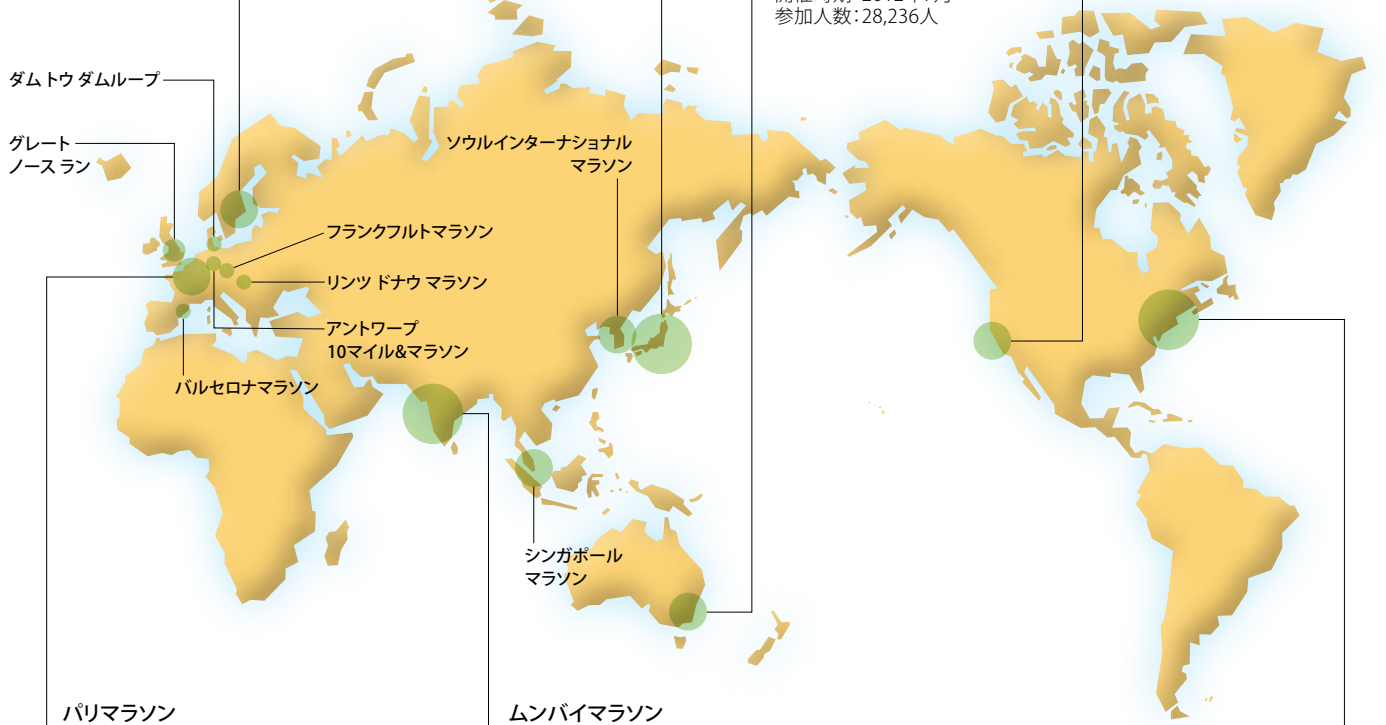
2012年度にアシックスが支援した主なマラソン大会

ストックホルムマラソン
開催時期：2012年6月
参加人数：15,949人

東京マラソン
開催時期：2013年2月
参加人数：36,228人

ゴールドコースト エアーポートマラソン
開催時期：2012年7月
参加人数：28,236人

LAマラソン
開催時期：2013年3月
参加人数：20,490人



パリマラソン
開催時期：2012年4月
参加人数：34,297人

ムンバイマラソン
開催時期：2013年1月
参加人数：36,000人

ニューヨークシティマラソン
2012年のニューヨークシティマラソンは、ハリケーンの影響により、1970年の開催以来初めて中止されました。大会の中止が発表されてすぐに、アシックスは、大会前に3日間開催されているマラソンエキスポでの販売収益の一部をアメリカ赤十字社に寄付しました。寄付金は救援活動に充てられました。

2012年度の主な活動

東北復興のための継続的支援活動
–A Bright Tomorrow Through Sport–

A Bright Tomorrow Through Sport
あしたへ、スポーツとともに

アシックスは2011年4月、東日本大震災で両親を亡くした子どもが心身ともに健やかに成長することを願い、スポーツを通じた継続的な支援活動「A Bright Tomorrow Through Sport」(あしたへ、スポーツとともに)を開始しました。

4つの支援プログラム

❶商品提供プログラム
2011年4月1日の時点で0歳から18歳までの震災孤児を対象に、対象者が満19歳を迎えるまでの間、当社スポーツ用品を継続的に提供します。2013年3月31日現在、184人が登録しています。

❷スポーツ選手訪問プログラム
スポーツ選手が訪問し、子どもたちにスポーツに関わるきっかけを提供します。2012年度はミニバスケットボール教室とベースボール教室を開催しました。ベースボール教室では、野球グラブ作り教室も実施し、子どもたちは世界に一つだけのマイ・グラブを完成させ喜んでいました。

ベースボール教室の様子

❸神戸招待プログラム
被災地域の子どもをアシックススポーツミュージアムやアシックススポーツ工学研究所(ともに神戸市)に招待し、スポーツの楽しさや復興後の神戸に触れることで活力を取り戻していただく活動です。
ミニチュアシューズ作り教室や神戸市内のバスケットボールチームとの親善試合などを実施。2012年度は5つの学校・団体から計249人を招待しました。

神戸招待プログラムに参加した子どもたち

❹健康運動支援プログラム
社員や協力スタッフが被災地域を訪問し、健康支援のための運動指導やイベントを実施します。
2012年度はNPOと協働し健康のための運動指導を行ったほか、被災地でグラウンド・ゴルフ大会を開催し、地域活性化に貢献しました。

お礼の手紙

公正な事業と利益の還元

アシックスの理念

03 **健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する**

CSR目的

- 公正な競争と適正な取引を通じて、利益を創出します。
- 株主、地域社会、従業員に利益を適正に継続的に還元します。
- 協力工場をはじめとするサプライチェーンに対し、CSRの価値観を共有することを求めます。

業務委託先管理方針

アシックスは、サプライチェーン、特に業務委託先工場及びそこで働く人々とともに発展できる関係作りに努めており、国際労働機関（ILO）憲章及びWFSGI（世界スポーツ工業連盟）の行動規範モデルにのっとった「アシックス業務委託先管理方針」（ASICS Corporate Policy of Engagement ）に基づき、工場監査及び工場と協働での改善活動に取り組んでいます。

2012年度の活動総括

2012年度は、内外のアシックスグループ全体で統一した評価手法、及び監査から改善に至る仕組みやそれに関わるツールをアシックスの欧州の統括会社、米州の統括会社それぞれのCSRチームと共同で構築し、サプライチェーン管理のグローバル化を図りました。

この新しい評価方法は、工場のコンプライアンスレベルを5段階で表すもので、これにより、その工場のリスクレベルは当然のことながら、アシックスの抱えるリスクをより定量的に把握できるようになりました。

全工場を5段階評価

工場のコンプライアンスレベルを5段階で把握する評価システムを構築しました。

労働時間、賃金、手当、強制労働、児童労働、ハラスメント、差別、結社の自由、安全衛生（消防安全など）、環境などの各項目を5段階で点数評価（1～5）するものです。また、今後は建物の安全管理についての評価も検討します。

評価「3」が、法令や国際基準、アシックス基準に沿った標準的状態で、卓越した状態が「5」、劣悪な状態が「1」となります。また、その工場の総合的なレベルについても全項目の点数の平均から導いて同様に評価し、監査で実地に得た情報と合わせて対応方法を検討します。このシステムにより、その工場の強みと弱み、ひいてはアシックスグループの抱えるリスクの傾向や推移がより定量的かつ視覚的に把握しやすくなりました。

全工場を総合評価「3」（標準）以上に

5段階評価によって、改善に向けて注力すべき点が従来よりも明確になり、工場とのコミュニケーションも円滑になりました。また、新規工場を選択する際も、事前にリスクレベルを明確に把握した上で判断することができるようになりました。

この新しい評価方法、及び監査から改善に至る仕組みとそのツールを運用し、全工場が「3」（標準）以上となるよう、工場と協力し合いながら改善に取り組みます。

2012年度の監査結果

2012年度は昨年に引き続きベトナム、インドネシア、カンボジア、フィリピンの工場への自社監査を積極的に行いました。この監査結果には、従来は中国一辺倒であった業務委託先工場が、広く東南アジア全般にシフトしている状況が如実に反映されています。

これらの監査を通じて、所在する国やその文化・習慣に特有の問題やリスクの存在が確認できました。

また、昨年自社監査を実施した工場に対しては、現地の法規や言語に精通したプロの監査員を派遣しての高精度な委託監査を実施し、自社監査結果との整合性を検証することで、より客観性のある工場評価手法の確立を目指しています。

監査の種類

評価の偏りや漏れ、誤りを防ぎ、工場の現状をより正確に把握するために、3種類の監査をしています。

①自社監査

当社のCSR担当者が、監査員として現場確認、資料確認、経営陣へのインタビューをします。アシックスの考え方を詳しく経営陣に説明し、意見交換をしながら、問題点の抽出や改善策の立案をしています。

②委託監査

専門の監査会社に依頼して実施する監査です。現地の法規や言語に精通したプロの監査員が行うことで、従業員の声など自社監査では集めきれない情報を得ることができます。

③FLA監査

当社が加盟するNPO「FLA」による監査です。自社監査・委託監査ではない独立した第三者による監査として重要です。

※FLA：公正労働協会（Fair Labor Association）。労働者の権利保護と労働環境の改善に取り組むNPOで、ILO憲章にのっとった独自基準で工場を監査しています。監査結果はウェブサイトでも公開され、公正さと透明性が保たれています。

非常時の安全確保のため、通路の幅を測る

救急箱の中身や管理状況を確認

消防器具の管理状況を確認

年度別監査数

アシックス製品は世界20ヵ国、約160の工場で生産されています。それらの工場を監査頻度、リスク度合い、地域性を考慮して監査しています。2012年度は自社監査、委託監査、FLA監査を延べ56工場に対して行いました。

監査実績の推移

監査年	自社監査	委託監査	FLA監査	計
2007年	31	27	11	69
2008年	34	36	8	78
2009年	10	23	10	43
2010年	32	22	8	62
2011年	41	10	8	59
2012年	36	13	7	56

監査項目

ILOの指標に基づく16項目について、「アシックス業務委託先管理方針」に沿って作成したチェックシートを用いて工場を監査しています。

総合評価の内訳

総合評価	該当工場
5	0
4	14%
3	58%
2	28%
1	0

※2012年度自社監査結果に基づく。
※総合評価は1～5の5段階評価。5が最良で1が最悪。標準は3

監査の主な項目と自社監査結果

監査項目	評価点（平均）	監査項目	評価点（平均）
アシックス方針の周知	3.2	労働時間	3.2
強制労働	3.3	手当	3.1
児童労働	3.2	安全衛生（消防安全）	2.6
ハラスメント	3.2	安全衛生（電気機械安全）	2.8
差別	3.2	安全衛生（個人保護具）	2.8
差別（妊産婦保護）	3.1	安全衛生（労働環境）	3.1
結社の自由	3.0	安全衛生（化学品安全）	2.7
賃金	3.2	環境	2.9

ガバナンスと従業員

アシックスの理念

04 個人の尊厳を尊重した
自由で公正な規律ある
アシックスを実現する

CSR目的

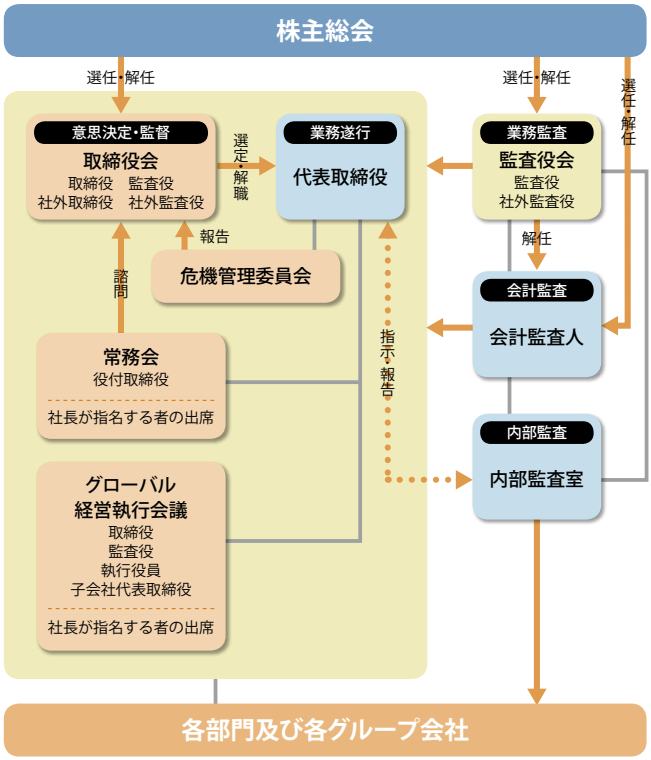
- 自らの意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。
- 多様性を受け入れ、従業員一人ひとりがお互いを尊重し、個性と創造性を発揮できる環境を整え、各個人の成長とともに企業の成長を目指します。

コーポレート・ガバナンス

アシックスは、企業価値を継続的に高め、株主など全てのステークホルダーから更に信頼される会社となるよう、スピードある透明性の高い経営を実現するためのコーポレート・ガバナンスを目指しています。経営管理体制の整備を行うとともに、企業経営に関する監査機能・内部統制の充実、コンプライアンスの徹底、経営活動の透明性の向上などに努め、株主の視点を経営に反映させることを心がけています。

また、当社は、「アシックススピリット」に掲げた創業哲学、「健全な身体に健全な精神があれかしー"Anima Sana In Corpore Sano"」を基本に、ビジョン「スポーツでつちかった知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する」の実現に向けて、「アシックスの理念」に基づいて事業を運営することを企業活動の基本方針としています。

コーポレート・ガバナンス体制



内部統制

内部統制基本方針

当社は、企業精神である「アシックススピリット」と「アシックスCSR方針」にのっとり、会社法及び会社法施行規則に基づいて、内部統制基本方針を定め、当社グループの業務の適正さを確保するための体制を整備しています。

財務報告に係る内部統制

当社は、金融商品取引法の「内部統制報告制度（J-SOX）」に基づく評価範囲を決定し、「全社的統制」「決算・財務報告プロセス」「業務プロセス」「IT全般統制」の各分野について、諸規程やルールを整備し運用しています。

今後アシックスグループ各社の業容拡大に伴い、従来評価対象ではなかった子会社についても内部統制の整備を進めます。またその過程で、関係部門の業務の効率化を図ります。

内部監査

2012年度、内部監査室は当社を含むアシックスグループの会社を対象に、国内1社、海外5社の合計6社の業務監査を実施しました。

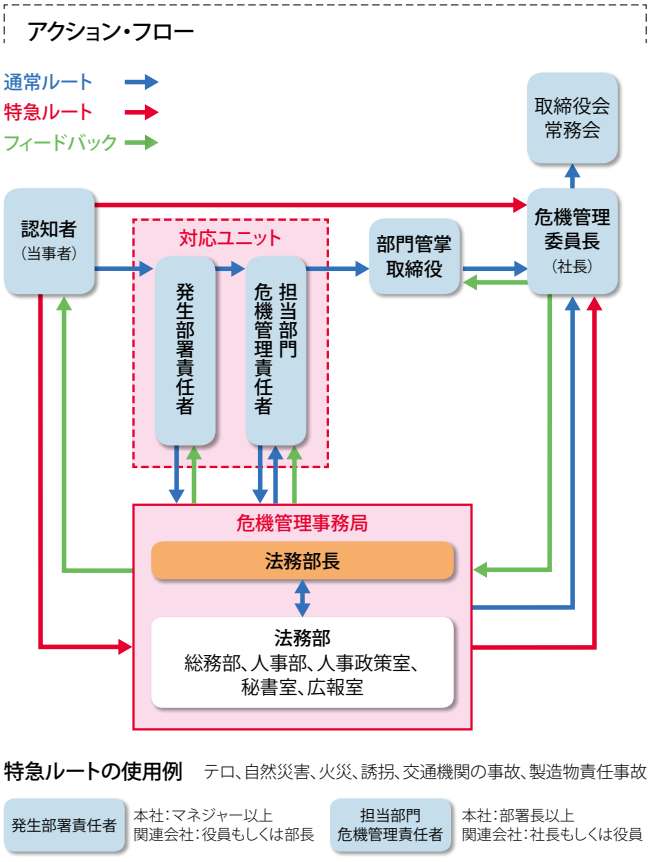
国内では、小売事業の業務プロセスが内部統制報告制度の評価範囲となったことに伴い、直営店17店舗を訪問し、業務内容の確認と効率化のための改善提案を行いました。また、海外では、業務監査に加え、現地担当者への内部統制に関する指導を目的として、リスク要因の多い中国と韓国の直営店舗の監査も実施しました。

2013年度は、グローバルでの小売事業強化が経営方針に掲げられていることから、国内海外とも直営店管理業務を中心に監査を実施する予定です。

危機管理体制

アシックスグループは、危機が発生した場合の損失を最小限に抑えることを目的に、危機の発生時もしくはその可能性が予測される際に基本的な行動が取れるよう危機管理規程を制定し、以下の体制を整備しています。

- 当社グループの役員及び従業員が危機項目を認知した際には、危機管理規程に定められた方法及び経路で危機管理委員長（社長）に報告するとともに、取締役会に報告する。
- 危機が発生した場合、危機管理規程にあらかじめ定められた危機レベルに応じて、危機管理委員長が危機対策本部の設置及び危機対策本部長の任命を行う。危機対策本部長は、危機対策方針等の決定及び対外交渉等を統括し、対策・改善策等を実施する。
- 危機管理委員会は、危険の定期的な洗い出し、予知・予防、教育等の立案・実施及び危機管理・危機対策の評価などを行い、危機管理委員会事務局は、グループ全体のリスクを網羅的、統括的に管理し、内部監査部門は定期的に危機管理状況を監査する。



特急ルートの使用例　テロ、自然災害、火災、誘拐、交通機関の事故、製造物責任事故

発生部署責任者	本社：マネジャー以上 関連会社：役員もしくは部長	担当部門 危機管理責任者	本社：部署長以上 関連会社：社長もしくは役員

従業員– ASICS 'One Team'

従業員は私たちの最も重要な財産です。多様性を受け入れ、従業員一人ひとりがお互いを尊重し、個性と創造性を発揮できる環境を整え、'One Team'として、各個人の成長とともに企業の成長を目指します。

アシックススピリットでつながる'One Team'

アシックスで働く従業員はそれぞれの文化背景や話す言語も様々ですが、皆が等しくスポーツの持つ力を信じ、アシックスの企業精神であるアシックススピリットを共有しています。(アシックススピリットの詳細は5ページを参照)

カード配布・社内ウェブサイトでのブログ運営

アシックススピリットを印刷したカードを全従業員に配布しています。カードは、日本語・英語・中国語・韓国語等5カ国語で作成されています。

また、社内ウェブサイトで、アシックスに関するトピックスや、各地域の従業員のアシックススピリットにまつわるエピソードなどを共有できるブログを日本語と英語で開設しています。普段は顔を合わさない従業員同士のコミュニケーションを促進し、グローバルでの一体感を醸成しています。

研修の実施

様々な研修の場で、従業員がアシックススピリットについて考える機会を設けています。冒頭にアシックスの歴史にまつわる映像を見て、それぞれの中で共感しているアシックススピリットを参加者間で共有します。また、アシックススピリットを意識したり感じたりしたそれぞれの経験を共有し、アシックススピリットに関する理解を深めます。

書籍の作成

欧州では、欧州事業所の従業員向けに「アシックススピリット・イン・ヨーロッパ」という書籍を作成しました。アシックスヨーロッパB.V.に長く在籍している役員が、主にこれまで培ってきた歴史について記述したもので、グローバル化が進んで新たにアシックスに加わる仲間が増えていく中で活用されています。

研修

アシックスビジネスリーダースクール(ABLS)

グローバル市場で成長を加速するアシックスの未来を支えるリーダーを、アシックス社内で早期かつ体系的に育成していくことを目的としています。会社が選抜した約30人を対象に実施します。研修期間は8〜9カ月で、「学習パート」と「実践パート」に分かれています。

「学習パート」では、経営戦略やマーケティング、アカウンティング等の基礎や理論を学びます。より経営者に近い視点から社会やアシックスを分析するためのスキル習得を目指します。

「実践パート」では、そのスキルを使ってアシックスの課題解決に向けた提言に取り組みます。このパートはチームワークを通じて新たな知見を得、思考を深めます。チームだからこその苦労もありますが、研修が終わる頃には、互いに切磋琢磨し、高め合える関係を構築しています。

グループディスカッション

個人で課題に取り組む

報告会

ダイバーシティ

アシックスではダイバーシティ推進プロジェクトを実施しています。

スローガン：‘One Team’違いを活かす、高め合う。

重点目標：

1. 多様な人材が優れたリーダーとして活躍できるよう育成する
2. 社員が自主的に前向きなキャリアビジョンやプランを持つよう、教育や仕組み作りを行う
3. 様々なライフステージにいる社員が最大限に能力を発揮し業務を遂行できるような制度・文化を作る

ワーキンググループごとに活動を進めています

ダイバーシティ推進プロジェクトメンバー

ワーク・ライフ・バランス

業務の効率化による時間外労働の削減のほか、育児や介護などで一時的に仕事を離れても働き続けることができる制度の設計で、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に取り組んでいます。

子育て支援策では、育児休業は第1子にとどまらず、第2子・第3子での取得が増加しています。また、欧州では、3年以上前から在宅勤務制度を導入しており、活用する社員が増えています。

法律を上回る休暇制度等（日本国内）

育児休業制度
子どもが2歳に達する日まで取得可能です。（法律では最長1年6カ月）

介護休業制度
通算で1年間取得できます。（法律では最長93日）

育児短時間勤務制度
子どもが小学校6年生を修了するまで、所定労働時間を短縮できます。（法律では小学校就学前までが努力義務）

短時間フレックスタイム制度
育児・介護を目的とする場合は、所定労働時間を1時間短縮した上で、フレックスタイム制度も利用できます。

子の看護休暇制度
子どもの病気等に対応するため、小学校6年生の修了時まで1年間に10日間の休暇が取得可能です。
（法律では1人目は5日、2人目は10日）

介護休暇制度
要介護状態の対象家族に対して1人目から1年間12日の休暇を取得可能です。（法律では1人目は5日、2人目は10日）

積立有給休暇制度
法律では2年で時効消滅する年次有給休暇を80日まで積み立てることができる制度です。育児・介護・看護及び不妊治療のために利用可能です。

ならし保育制度
保育所に入所することになった子どもが保育所に慣れるまで、最大1カ月まで取得できる休暇制度です。

トップからひとこと

ダイバーシティを活かし、組織を活性化

イノベーションの創生とグローバル事業の拡大には、ダイバーシティ、つまり「多様性」が不可欠です。

アシックスには、性別、国籍、文化、年齢、キャリアなど、異なるバックグラウンドを持つ人々が集まっています。この人々の「多様性」から、新しいアイデア、新しいイノベーションが生まれるものと信じています。

いろいろな考え方を持つ人たちが意見を出し合い、ぶつかりながら共通の解決策を見出す努力は、それまで気づかなかった新しい視点を与え、創造的なアイデアにつながります。ダイバーシティを推進する上では、社員が根幹の部分でしっかりとつながっていることや共通のツールを持つことが大切です。アシックススピリットの共有と浸透を更に進めるほか、グループ間のコミュニケーションのツールとなる英語レベルを上げる教育制度も検討していきます。

ダイバーシティのプロジェクトを通じ、女性や様々な国籍の従業員の活性化を進めていきます。

代表取締役社長CEO　尾山 基

未来が変わる。日本が変える。チャレンジ25

アシックスはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

本レポートに関するお問い合わせ先
株式会社アシックス　ＣＳＲ・サステナビリティ室
〒650-8555　神戸市中央区港島中町７丁目１番１
Tel.078-303-1244　Fax.078-303-2211

株式会社アシックス

ⓒ ASICS Corporation 2013.6.JN.（TP）Printed in Japan

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C014687

環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。